

『居場所作り』 ～ 『人生の根幹を追求する』 ～

2024 年 12 月 6 日は、病理医としての定例の病理組織診断業務に赴く。【『病理学』＝『形態』&『起源』&『進展』などを追求する学問分野】である。ある意味では【人生の『意義』と『目的』の『静思』】へとも導くもの考える。

筆者は、癌研究所病理部時代、アメリカの Fox Chase Cancer Center の Knudson 博士(1922-2016)の下で『遺伝性腫瘍』を学ぶ機会が与えられた。そして『癌研究所所長：菅野晴夫(1925-2016)先生』に実験病理部部長に呼ばれ 1991 年帰国した。原田明夫(1939-2017)検事総長とは、2000 年に『新渡戸稲造(1862-1933)武士道 100 周年記念シンポ』、さらに『新渡戸稲造生誕 140 年』(2002 年)、『新渡戸稲造没後 70 年』(2003 年)、2004 年には、国連大学で『新渡戸稲造 5000 円札(画像)さようならシンポ』を企画したのが 走馬灯のように駆け巡ってくる。

2003年に、順天堂大学教授に就任し、クボタショックの2005年、順天堂大学で『アスベスト・中皮腫 外来』を開設する機会が与えられた。そして、2008年『がん哲学外来＝患者さんや そのご家族と面談し、苦しみを和らげる』が開設された。臨床医でない病理学者である筆者が『がん哲学外来』を創設出来た原点は、『病理学＋人間学＝がん哲学＝人生の根幹を追求する＝がん哲学外来』であろう。

12 月 7 日午前中は、【早稲田大学エクステンションセンター中野校】での講座『ジャンル：人間の探求 ～ 講座名：がんと生きる哲学』に赴く。テキストは『新渡戸稲造 壁を破る言葉』(三笠書房 2023 年 10 月 15 日発行)を使用する。10 月 15 日は、新渡戸稲造(1862-1933)が 1933 年ビクトリアで逝去した命日であり、本書を発行することになった。

その後、万座温泉日進館での【2024 年メデイカル・ヴィレッジ in 孀恋村：がん哲学外来カフェ in 万座 『樋野先生を囲んで ちょっと早いクリスマス!』】での講演『小さな事に忠実であれ ～ 病気であっても病人ではない ～』に向かう。2012 年 万座温泉日進館で『がん哲学外来カフェ』が開設された。筆者の夢は、『Medical Village(居場所作り) in 万座』構想である。

